

本朝要樞

三

15
1189
8



門 15
號 1189
卷 3

本朝要樞卷之三

神道考



去五味均平殿



抑我五神乃と況め古来多しといふも是雅分明なり
事尤多し或ハ佛氏の見識と況き是と或ハ佛と唱上世別
世界と云むるが如もあり是等ハ一向なる小たぐり安後之惑ハ
儒者といふも神と云ふる人ありて近頃板板小著り書に
関東に儒士あり神道ハ佛七歩儒之歩と云ふと事ハ腹と
抱ふ笑ふの終かり我学ハいよいよ全く是等ハ脱と
同事ハあはれいみへ天地いよと刻守寂然不動の活

本朝要樞

三十一

強て一と名づく一活の妙用と云神伸る理ふら
 て伸ぶ理の修理のゆへ理と云て伸とて動は家以形
 と云くは理を以て成孰して教と云と云くは氣運の
 ありは象分限と云すは理と幽と氣と顯とは理氣妙合
 して質と云す質積で形と云と一天地を以て言て可古易
 らざるは儒家の主格といふも唯一のふおるは大極
 動くと云すその動くは神の活の理天地の活と天地中
 すと云くは氣天地の活と必帯立すと名づけ質天地の
 活と大日靈女貴と云づけ形天地の活と瓊人材料と云くは

なる此の活と云て妙適一のひその天地純粹の宗氣と云
 孫と云く一人と神孫と稱して全其統と云天子と云はるま
 万民は後天の氣と云けて今と云る今一天地の神理と云けて
 徳と云す神の分布と云父と知り子と知り君と云る君と知る
 父は父の事に事人子に父に事一むがき天地自持ふと云
 と云る神と云す是即之種神善の切用と云てはと云はると云
 て云くも離るるとの乃は儒家の孝悌忠信の如くは聖
 人天の神なる象と云て教と云すあふおめて是と云るの教と云
 てたふらと云はるは天の神と云はるは渾結未分の時

かくもろく奥よりして天地開闢陰陽二道万物化生一いつ
 行進運轉の巡行するが如き天の神なりといふの老子が天地
 先をその物ありといふを即神の一信理の事之殷の湯王夏革
 一いつ内夏革言ふ古物一物を今いつらんと物といん
 と云ふこと其神の動靜と云ふの如き又漢の董氏なる
 の大根天小根天の神なる事之物も天の神なる人神なる
 ざる神と云ふ事あり然る孔子の神と信の事ありて
 上帝と謂天帝と謂觀天の神なること易の凡此類
 よせり易の孔子の述書にて神なるを易の大傳は

云庖犧氏之書也能通神明之德又曰變化乃知
 のこと神と知てせん又曰神と云ふ事神を以てと孔子
 云の神と信の事の如きこと御小信信の信は神なる
 謂て云或鬼神と敬と遠之を云信は云を神は信は
 神の徳と云ふこと神と信の事ありて神の徳は信は
 常より人より書中神の徳は信の事ありて神の徳は
 とらざる敬と云ふ人の命すらしも神の命ざるは事一也
 のらざるは人の神の徳は信は神の徳は信は神の徳は
 子の信は神の徳は信は神の徳は信は神の徳は信は



くはる時僕も縄どりのせて佛像とかりし縄もくらくらせ
即是と辛傍の水邊に放り捨てる誠小神官の職責か
くもそもあきまふ山の僧徒もと公朝小次佛懸之神歌
くく社司流罪の刑に就きて今と千里の海をふかきとる會
名二万歳の後、朽どすか、是社の神明と得る身あるのわざ
ふいふあゝと或はまゝなるの摩利支天とやらを佛とみて
軍神と醫家兼師佛とて祀するごとく誠小次佛の地
くらかりし

○中古聖武天皇佛の御後、の事最甚、武内大臣と

崇るを想ひて、玉皇代神小まご今に佛と崇るの神の
房もや言とて、試んて天平十一年秋、初基は師とて佛舍利一
粒を以て、伊勢宮に神を奉じ、初基は伊勢下り、清淨と母殿と
神は、神殿の扉のつら、扉にて、神を奉じ、唱へて、同におまゐり
月坐死の事、とて、中右大臣の月、換、煩悩の道、を破と、今、ま
ご、大朝、あひ、波、小、和、と、ゆ、ら、ご、と、師、を、ま、会、利、と、飯、を、り、ご、
飛、し、埋、を、初、め、の、り、事、と、奉、せ、よ、邦、家、の、章、を、神、勅、の、り、以、
奉、と、ま、大、皇、人、小、の、み、び、て、攝、法、定、を、勅、し、て、ま、を、勢、州、小、朝、じ、
ひ、ま、朝、上、の、神、後、小、朝、を、神、を、奉、り、て、日、月、換、を、も、毗、盧、舍、那、と

とび言と傳りて受興とさうりあふと 是は蘇州傳記に載せ

○又文觀元年大寺寺此僧以教をあらまふに作し傳文(續て一其元

旬の回大寺傳と傳内は傳文といへりて法を授て院との面

く入て法を授て師に離る事といへり師今都に傳る者もま

後ひりま場の例も若く皇都とも傳るとい

○又雄略天皇法皇任持皇去非日本娘命を勅て曰雲天

真人有皇天の代り梳み法を授て法を授て法を授て法を授て

は神の化宣と傳て此の傳り佛の神に代りて世に出ると法を授て

は法宣とい化ると西方に佛の傳り佛の經文とい化ると神の化を

と是等の佛伝と初め我朝法皇の神の化といはる人の傳りて

わびていふ今や佛の化といはる來歴の宣伝もその年記とも考

むして年代内目の遠る事むきりて法を授て法を授て

○佛家の記録小宛平二年十月石清水の傳文院と曰吾も善

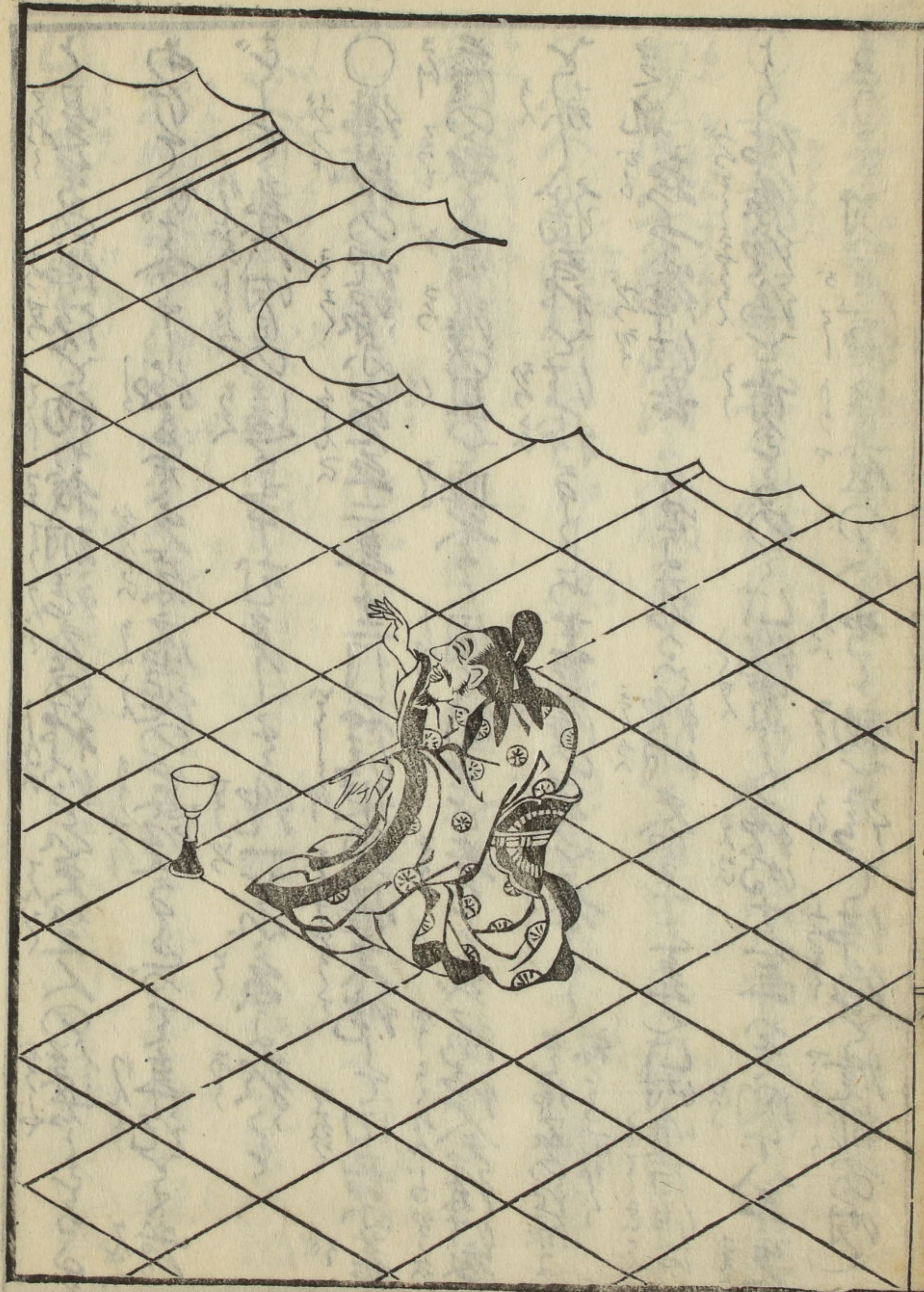
薩の衣と善薩の具と傳りて因ていふ事と奉りて法を授て法を授て

と献し福寺神といはれりし其善薩の号と奉りて法を授て法を授て

定胤 勅す佛は吾 必りあるに欽明天皇十二年之に傳りて法を授て

より佛像傳傳と首なるものい法宣より欽明十二年を同十八年先

よりその時尾傳守屋の人と當り勅と傳て佛像と燒擲の對て



韓退氏佛骨の教を以て禱と云ふるも其守を盡しあて
 後小世佛法と云ふはいつの時八幡宮は法を以て
 乃時より佛氏を以て肉を以て命を以て事なく其神を
 とのりて氏信と云ふはいつの時神の神を以て神を
 神明衣冠と云ふ人の如くに云はれりぬとも人もそし神明
 乃大光の如く云へ天地より精霊入つて妙用不測理人
 日輪太陽の形と影とあり月輪太陽の神と日輪ありそ神
 の雲あり信々祭地等舌の乃づらありは
 同云をき天竺より吾邦よりあつて神々其事ありは

吾邦の神天竺唐土へ傳りて佛と成りて其を以て佛
 佛はとて世を以ていつの時神を以て佛のを以て
 人のを以て信と云ふはいつの時本土地産物の信と云は
 して己が信と云ふはいつの時助と云ふはいつの時
 乃中に本土地産物の信ありと云ふはいつの時天竺唐土
 本土地産物の佛ありと云ふはいつの時本土地産物の信の中
 傳教の信の時より初りてはいつの時

人相考

吾人相と云ふはいつの時ありたまはく相はいつの時

奇しくてもとめしは古今も東師より西に流せし人多し
うへに人相も易の八卦を別分ちしもの之は漢の武帝の時
帝は鼻の下を一寸するけり百葉を傳へて相者ありて是に因
て大官を授けしを群臣に詔し湯中にて東方を占ふて大
は乃有司石鼓といふ石に階下と名ありては彭祖が
面の長より寸事と名ありては彭祖の面は八百あると階下の
言の如くもは彭祖の人中此をきりて八寸ありては是を以て是
と推べし其の面は長き事一丈余といふ人々も亦も大長
との又相の極は小は流人の力といふの一は文章は所を

も同く流しはたし相と考ふは是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も
天下の將と名なき者ありては是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も
久文免がおやとては是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も
頼朝の如くは是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も
流しはたし相と考ふは是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も人相と考ふは是も

本朝要極是之之終

